

【執筆者プロフィール】

小林圓照こぼやしんしょう

一九三四年香川県生まれ。龍谷大学大学院修士課程修了。花園大学名誉教授。博士（文学・関西大学）

有田秀穂ありたひでほ

一九四八年東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東邦大学医学部教授。医学博士。

千坂峻峰ちさかげんほう

一九四五年宮城県生まれ。東北大学大学院修士課程中退。宮城県祥雲寺住職。聖和学園短期大学特任教授。

本多道隆ほんだみちりゅう

一九七六年大阪府生まれ。広島大学大学院修士課程修了。大阪府梅松院副住職。妙心寺派教化センター教学研究委員。博士（文学・広島大学）

野口善敬のぐちぜんけい

一九五四年福岡県生まれ。九州大学大学院修士課程中退。福岡県長性寺住職。妙心寺派教化センター教学研究委員。東洋大学東洋学研究所客員研究員。博士（文学・東洋大学）

【編集後記】

『臨濟宗妙心寺派教学研究紀要』第六号が、ここに無事発刊の運びとなりました。今号にも五篇の優れた研究成果を収めることができました。

まず花園大学名誉教授・小林圓照先生には、『却温神呪』の成立に関する論文を頂戴致しました。昨年末、我々、教学研究委員会は、前委員長・野口善敬師による編著として『禪門陀羅尼の世界』（禅文化研究所刊）を出版致しました。その中で『却温神呪』に關しても検討を加えましたが、本經の來歴については不詳とせざるを得ませんでした。先生は本論において、我々が解明できなかった点について明快に論証しておられます。委員一同、御教示に対して深く感謝致しているところです。

他にも東邦大学医学部教授・有田秀穂先生からは、医学的な見地から坐禪における腹筋呼吸が脳内のセロトニン神経を活性化させ、自律神経や平常心に影響を与えることを検証された、本当に興味深い論文を特別に寄稿頂きました。また千坂嶮峰師からは、五山僧の詩文を丁寧に読み込んだ上で、従来の理解が如何に浅薄なものであったかについて詳説された、大変に意義深い論文を賜りました。更に本多道隆師は、『大悲呪』が中国の近世に、禪宗と世俗との間で如何に受容されていたのかについて論ぜられ、野口善敬師は、研究ノートとして中国の明末・清初に活躍した牧雲通門の著述に資料面から検討を加えられました。御執筆頂きました皆様に対しまして、ここに厚くお礼申し上げます。

さて『教学研究紀要』は、学識に裏打ちされた宗門人育成の契機となることを祈念して創刊されました。お陰様で号を重ねるごとに投稿や購読数も増え、紀要の意義が宗門内外に浸透しつつあるものと嬉しく思っております。

課題となっていた査読体制につきましては、花園大学の教授陣にも御協力を仰ぐこととなり、より一層強化されました。仮に査読の結果、掲載させて頂けないことになりましたも、決して諦めることなく、再度の投稿を期待致しております。

また今後、更に積極的に投稿して頂くために、次号より論文の枚数制限を無くし、執筆者の任意とすることに致しました。長編の原稿は勿論のこと、たとえ短篇であっても内容の充実した研究成果の投稿を心から願っております。

なお前述致しました通り、昨年教学研究委員会の研究成果として『禅門陀羅尼の世界』を出版致しましたが、残った施餓鬼に関する經典等の訳注を一つにまとめて、本年の初夏に、同じく禅文化研究所より『開甘露門の世界』と題して出版される予定となっております。どうぞそちらもご期待下さい。末筆ながら、前号に引き続き、教化センターの羽賀浩規師には事務全般の労を煩わせました。ここに深謝申し上げます。

(廣田宗玄 記)

【『臨濟宗妙心寺派教学研究紀要』論文執筆要項】

《テーマ》 臨濟宗を中心とした禪宗に関するもの。

(ただし、仏教全般に互る内容で、宗学に資すると考えられるものについては、これを認める。)

《枚数》 執筆者の任意とする。

《書式》 ・ 本文は日本語とする。

・ 縦書きを原則とする。(サンスクリット等の資料を中心とした論文の場合は、横書きも認める。)

・ 本文・資料共に漢字は原則として当用漢字を用いる。

・ 資料として書き下し文を用いる場合、仮名遣いは新旧任意とする。

・ 資料を口語訳した場合には必ず原文を付す。

・ ワープロの場合は、打ち出し原稿とテキストファイルのフロッピーを提出のこと。

《応募先》 〒六一六一八〇三五 京都市右京区花園妙心寺町六四

妙心寺派宗務本所 教化センター TEL〇七五―四六三一三二二一代

※封筒の表に「紀要原稿在中」と明記のこと。

《締め切り》 毎年十二月末日(厳守)

《発刊》 翌年四月(予定)

臨濟宗妙心寺派

教 学 研 究 紀 要 第 六 号

平成二十年 五月一日 発行

発行人 細 川 景 一

編 集 妙心寺派宗務本所教化センター

印刷所 中村印刷株式会社

発行所 妙心寺派宗務本所教化センター

〒六一六一八〇三五

京都市右京区花園妙心寺町六十四

電話(〇七五) 四六三一三二二(代)